

平成 27 年 第 1 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 27 年 6 月 30 日(火)	会場
開会時刻	午後 4 時 00 分	佐渡島開発総合センター 2階 第3研修室
閉会時刻	午後 5 時 34 分	
出席者		
市長 甲斐元也	教育委員会 委員長	仲川 進
	教育委員会 委員長職務代理者	仲川 正道
	教育委員会 委員	仲川 美紀
	教育委員会 委員	金子 眞理
	教育長	児玉 勝巳
説明のため出席した職員		
総合政策監 池町 円	学校教育課	
総務課	課長	吉田 泉
課長 渡辺 竜五	管理主事	山田 裕之
課長補佐 伊藤 賢治	課長補佐	北見 和子
庶務係長 金子 高敏	社会教育課	
	課長	越前 範行
	課長補佐	高野 久之
傍聴人数	4 人	

会議に付議した議題

- (1) 佐渡市総合教育会議の設置について
- ・ 佐渡市総合教育会議運営要綱について
 - ・ 佐渡市総合教育会議の傍聴に関する要領について
- (2) 大綱の策定について
- ・ 佐渡市の教育の現状について
 - ・ 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ・ 意見交換

吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定刻になりましたので、ただいまから平成 27 年度第 1 回佐渡市総合教育会議を開会いたします。私は、この会議の事務局を担当しております、学校教育課長の吉田と申します。よろしくお願いいたします。 ・ それでは、開会に当たりまして甲斐市長、仲川教育委員長よりそれぞれご挨拶をいただきたいと思ひます。まずは、甲斐市長からお願いいたします。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、27 年度と言うよりも我が佐渡に取りましては、第 1 回目、初めてでありますけれども、総合教育会議というものを今日開かせていただいた訳であります。後程、この要綱、大綱等について担当課の方から説明がある訳であります、今日は中身をどうするかという議論をするつもりはさらさらございません。なんでこの総合教育会議というものをやらなければならないかということ、是非皆様方でご理解をいただきたいなと思ひているところであります。 ・ 私もよく覚えておりませんが、どこかの市町村でいろんな問題があつて、いわゆる教育委員会の形骸化がある、或いは、スピード感が足りない、こんなことがあつて、それからこういうものがクローズアップをされた訳であります、教育委員会の中の形骸化が進んでいる、或いは、スピード感が足りない、危機管理が足りない、こんなことでですね解決をするならば、総合教育会議で首長が入つてやる必要は全くない。教育委員会自らが改革をすればいいことでもあります。何故ここに首長が入るのかということについて、今日は、私自身も皆さん方に相談をさせてもらいたいと思ひておりますし、その辺のことをまずご理解をいただくという方針です。 ・ 今日は、そういう意味では、佐渡市のこれから平成 31 年まで向けました、いわゆる佐渡市の将来ビジョンがございます。それに基づきまして、今、国でもやっておりますが地方創生の佐渡版というものが作られていると。その中に、教育の在り方という部分も当然入っている訳でございますので、そこでどう連携を取っていくのかということになるんじゃないかなと思ひております。 ・ その中にもキャリア教育という言葉が書いてある訳ですが、本当に教育委員会、特に担当課長はキャリア教育の意味というのが分かっているかどうかについて、甚だ私は疑問であります。佐渡で生まれて育つたその人達が、本当に佐渡を愛する、その気持ちを持つということが、キャリア教育の原点であります。 ・ 先般、土曜日の日に、小林よしえさんという旧両津市出身の里帰り民謡大会がありました。私は、その佐渡おけさとか色んなものがある訳ですが、日本一素晴らしい民謡であるだろうと思ひております。このことの発表会があつた時に、小学校・中学校に対して招待券を渡しているはずなんです。一人も来ませんでした。一人も来ませんでした。これは、学校の先生が悪いのか、教育委員会が悪いのか、わかりません。まして、教育委員会の担当は、

	<p>その受付もやらなきゃ何もやらないという様であります。これで本当に佐渡市の教育が良くなるのかっていうことを考えた場合に、前途真っ暗になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そういう意味でですね、本気になって佐渡の教育をどうするかっていう事を考えるのが、実はこの教育会議だと思っておりますので、今日は意見交換の場もある訳でございますから、その中で一つ皆さんで意思統一をしていただきたいと思っております。 ・ 学校教育課長はこれの担当をやる訳であります、学校教育課長が進めるんじゃない。教育っていうのは、教育委員の皆さん方の思慮のもとで学校教育課長がやる。どうも今見ると逆になってるんじゃないかと思っております。そういう意味では、これからそういう所も変えていかなきゃならないという、教育改革の基本的な1丁目1番地じゃないかなと思っておりますので、どうかひとつよろしくお願いを申し上げます。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に、仲川教育委員長お願いいたします。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一言ご挨拶申し上げます。いよいよスタートだなど、そういう思いであります。私がかねてから市長を交えて、或いは市の幹部の方々と教育談義をしたいなあと、ゆっくり教育談義をしたいものだなど、このように思っていたところでありますが、この度のこの教育総合会議、市長を先頭にしてですね、市長を交えてこの意見交換をできると、とても意義深いことでありますし、また、ありがたいことだなど思っている訳でございます。 ・ そんなことを思いながら、文科省のある調査を目にして、それは何かと言いますと、国と市町村、或いは各都道府県もそうですけど、首長と教育委員会がどれだけ意見交換の場を持っていますかという問いなんですね。それを見ましたら、1回以上行っているというのが、市町村が2回・3回も全部含めまして38パーセント位の数字が出ていたかと思うんですね。それにしても3分の1以上の市町村が1回・2回・3回と市長なりの首長と意見交換をしていると。都道府県の県はですね、なんと57パーセント位。半分以上ですね。こういう数字を見ましてですね、忙しいとか何とかと言っているけれども、やる所は色々工夫してやっているんだなど思った次第であります。これは、あくまで1例であります、そんなことで佐渡市の教育委員会は決して先進地であるとは私は思っておりません。佐渡の教育の発展と言う、誰もが願うこの共通認識に向けて、もっともっとまだまだいろんな面で教育行政の改革を図って行かなきゃならんと思っている訳であります。 ・ この度のこの教育委員会改革がですね、佐渡市の教育委員会におきましても、まさに委員会改革をどんどんしていかなきゃならん、そのような認識でいる訳であります。委員全員の知恵を出し合いまして、そしてまた、事務局の皆さん方のお力をいただきながら、しっかりと教育行政を推進しん

	<p>きゃならん、そんなことを自分自身認識をしながら挨拶とさせていただきたいと思いますが、今後ともどうかよろしく願いいたします。</p>
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。議題の（１）でございます。佐渡市総合教育会議の設置についてということで、資料１に基づきまして、総合教育会議の概要についてご説明いたします。 ・ まずは、設置の根拠でございますが、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第１条の４第１項の規定によりまして、設置が義務付けられました。会議の構成員につきましては、市長及び教育委員会委員で、市長が招集をすることになっております。会議は原則公開でございますが、個人情報保護の観点や公益上必要と認められる場合は、非公開となる場合もございます。会議の議事録につきましては、ホームページ等で公表して参りたいと思います。 ・ 続きまして、協議の内容でございますが、大綱の策定、重点的に講ずるべき施策、それから緊急時に講ずるべき施策とこのような３点が掲げられてございます。この会議で協議・調整が付きました事項につきましては、市長・教育委員会お互いに尊重することとなっております。 ・ 会議の庶務につきましては、学校教育課が担当いたします。もちろん、市長部局とも十分に連絡をし、会議を開催していきたいと考えております。会議の運営方法等につきましては、この総合教育会議で定めることとなっております。なお、会議でございますが、今年度は教育大綱を策定する必要があるため、今回を含めまして、年４回程度を予定させていただきたいと思っております。次年度以降につきましては、年３回程度ということで考えております。ただし、緊急性がある事案につきましては、随時開催して参ります。以上でございます。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続きまして、佐渡市総合教育会議運営要綱及び佐渡市総合教育会議の傍聴に関する要領について、総務課長から説明いたします。
渡辺総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。総務課の渡辺と申します。よろしく願いいたします。ご説明いたしますのは３ページの総合教育会議の運営要綱と言うことでございますが、この考え方につきましては２ページの一番下になります。総合教育会議第１条の４の９項でございます。総合教育会議の運営に関し、必要な事項は総合教育会議が定めるということになっておりますので、この法で定めたもの以外の細かい運営の要綱等を、この要綱で定めるということになっております。 ・ ３ページをご説明いたします。第１条、主旨でございますが、これは今申し上げたように、法の第１条の４の第９項に基づいております。２条、会議の招集手続として、市長が原則会議を招集いたしますので、会議の日時・場所・協議題の事項を出席者に通知するというを規定しております。第３条の会議につきましては、法の趣旨として、市長と教育委員会の構成員の全てが出席することが基本であるということになっておりますが、緊急事態等

	<p>の場合、教育委員を招集する時間等がない場合は、市長と教育委員会委員長のみでも会議を持つことができると、逆にそういう形での規定になっております。2項では市長が会議の議長となることを規定しております。第4条につきましては、傍聴についての手続を規定いたしました。これは、傍聴についての要領と言うことで、この後説明させていただきます。第5条につきましては、これは議事録の作成と公表でございます。第6条では事務局を教育委員会学校教育課に置くということを規定しております。最後7条は、この要綱で定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は会議をもって定めるという、この要綱の7条建てということで構成してありますので、ご確認をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 続きまして、先ほどの要綱の4条に基づきまして、佐渡市総合教育会議の傍聴に関する要領の案がございます。この要領も趣旨に始まっておりますが、これは書いてあるとおりでございます。傍聴手続と傍聴できない者の規定と、傍聴する際の守るべき規定、後は傍聴人の退場の規定ということを決めて規定しております。ご確認をお願いします。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今、運営の要綱及び傍聴に関する要領についてご説明をいたしました。何かご質問等ございますでしょうか。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ (質問等なし)
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無いようでありましたら、このままご承認ということよろしいでしょうか。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。それでは、今程の要綱・要領「(案)」を取っていただきまして、この後この要綱並びに要領に基づいて会議を進めてまいりたいと思います。 ・ ご承認いただきました、要綱第3条第2項により市長が議長になりますことから、この後の進行を市長の方をお願いしたいと思います。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、今程要綱をお認めいただいた訳でございます。ありがとうございます。第3条2項に基づきまして、私の方でこれからはばしの間進行させていただきます。 ・ それでは、皆様方のところにお配りしてございます平成27年佐渡市総合教育会議次第の3の議題の(2)であります。大綱の策定について、これにつきまして学校教育課長から説明を申し上げます。ただし、この大綱はあくまでもイメージでございまして、このとおり作るということではございません。最後に意見交換をさせていただく予定であります。その意見交換の中で、総合教育会議は、なんでやらなきゃならないかというものが皆さんの頭の中に入った段階で、この大綱を策定する、こういう事でございますので、これはあくまでもコンクリートじゃないということだけはご理解いただきたい。はい、お願いします。

吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、資料3をご覧ください。まず、1ページでございますけれども、大綱の位置付けでございますが、これは先ほど資料1の方に法律の掲載をしておりますけれども、地行法上の第1条の3の規定によりまして、教育に関する基本的な方針として策定するものでございます。 ・ 2番目の他の計画との関連ということになっておりますが、大綱の策定に当たりましては、佐渡市の最上位計画でございます佐渡市将来ビジョン及び現在策定を進めております佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連付け、また、国・県の定めます教育振興基本計画も参酌しながら進めていきたいと考えております。 ・ 期間につきましては、他の計画等との関係から、5年間とすることといたします。 ・ 続きまして、2ページ目でございます。先ほど市長が申しましたとおり、この大綱はあくまでもイメージということをご理解いただきたいと思います。大綱につきましては、まず2番目の理念及び目指す姿、教育はこうあるべきであるというような理念、それから、目指すべき姿・方向性、そして基本目標によって構成をしたいと考えております。 ・ また、第3章におきまして、それらを具現・実現化していくための施策となります基本計画の骨子も併せて定めたいと考えております。なお、基本計画（教育振興基本計画）でございますけれども、大綱に基づきまして、別途具体的な施策を、今後定めていく予定でございます。以上です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今事務局の方からですね、大綱のひな形と言いますかね、こういう形で大綱というものを作っていくということをお示しさせていただきました。内容は、これから何度かやる中でこの部分を埋めていくということになる訳であります。一つのひな形としてですね、こういう流れで大綱を作るということについてご了解いただけますでしょうか。
教育委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。ありがとうございます。じゃあ、こういう形でこれからの議論も踏まえながら、この白色部分を塗っていくという事になる訳でございますので、ひとつの流れとしてこういう形でやるということについてご了解いただきました。ありがとうございました。 ・ 次に、今これをやるにあたっては佐渡市の教育の現状、佐渡市の将来ビジョン、或いは地方創生の佐渡版も今ある訳でございますので、その辺を参酌をしてこれを作って行かなきゃならない。したがって、それらについてまず皆さんからご理解をいただきたいということで、担当の方から説明をさせますが、まず佐渡市の教育の現状について、学校教育課長及び社会教育課長から説明をさせますので、よろしく申し上げます。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。それでは、資料2に基づきまして、まず学校教育課の所管からご説明させていただきます。

- まず、佐渡市の学力の実態でございますが、資料の1ページでございます。これは毎年国が実施しております、小学6年生と中学3年生を対象としました、全国学力・学習状況調査からの分析でございます。小学校、まず国語でございますけれども、全国平均を上回っております。小学校につきましては、国語、数学共に全国平均と同程度でございます。なお、数学のB、これは応用問題でございますが、若干、弱さが見受けられます。中学校でございますが、国語・数学共に全国の平均を下回っている状況でございます。ただし、一昨年から比較しますと、数学の格差が大幅に縮まっております。因みに、ここには掲載してございませんけれども、右下の数学の表に書いてございます、()の数字が全国との比較でございますが、今年度は2.7のマイナスポイントでございましたが、前の年についてはマイナス6ポイントでございました。数学Bにつきましても、その前の年7.8ポイントに対して3.2ポイントですので、一昨年度から比べると、格差が縮まって来ているということが言えると思います。
- 2ページについては普段の生活等の結果でございますが、特徴的なこととしまして、左が小学校の欄、右が中学校の欄になります。小学校の欄でございますが、テレビ・ビデオ・DVDを見る時間、ゲームする時間が全国平均よりも多いという傾向でございます。それと、中学校でございますけれども、家庭で学習する時間は全国平均よりも少ないという状況でございます。
- 次、3ページでございますが、毎年民間が実施しておりますNRTの学力検査、これは偏差値を表す検査でございますけれども、佐渡市の目標設定としている数値が表の3、一番下にございます。小学校が偏差値53以上、中学校が50以上、これが佐渡市の目標でございます。小学校につきましては、全体で54.4、国語・算数共に55.1と佐渡市の53以上の目標を達成してございます。中学校は、5教科のうち数学と英語が48.4と49.2と達成していない状況でございます。
- 4ページです。折れ線グラフの状況から、ここ1・2年につきましては、学力的にも向上しているという兆しが見えるかと思えます。
- 5ページをお願いいたします。これは、佐渡市のいじめ及び不登校の状況でございます。表は過去3年間の国と県並びに佐渡市の比較ができるようになっております。いじめの件数でございますが、1,000人当たりの認知件数は、国・県よりも低い状況でございます。下は不登校の状況でございます。不登校は逆に、国・県よりも1,000人当たりの人数は、多いという状況になっております。
- 6ページ・7ページをご覧ください。これは、児童生徒の体力・運動能力についてでございますが、平成26年度国が実施しております、体力テストの結果です。上の表は小学校、下の表は中学校というふうになっております。1番左の方をご覧くださいと思いますけれども、学年・男女の区分で、

これブルーの行、これは佐渡市の児童生徒。色なしが新潟県。ピンクが全国平均ということになっております。テスト項目は、8項目ございまして、1番右の方に各10点ごとということ、80点満点の平均得点の合計が掲載されてございます。なお、全国調査の対象となる学年については、毎年小学5年生と中学2年生が全国で一斉に調査することになっております。新潟県のレベルでございますけれども、小学校5年生が全国男子2位、女子3位となっております。中学校につきましても、2年生男子は3位、女子5位と小中学校男女共に全国上位に位置しております。それぞれのテストにおきまして、県の平均を上回ったものについては緑色で表示してございます。小学校は全学年男女で96項目ございまして、そのうち56項目が県平均を上回っています。一番右端の平均得点の合計ですが、男子は3つの学年で、女子は5つの学年でそれぞれ県平均を上回っています。下の中学校の欄でございますけれども、県平均を上回る項目は、48項目中24項目となっておりますが、右端平均得点の合計では、県平均を上回る学年は男女共にありませんでした。小学校の学力につきましても、かなり全国的にも良い傾向にあると分析できます。

- ・ 8ページ・9ページをお願いいたします。学校統合についてご説明いたします。学校統合につきましては、平成18年に策定しました、佐渡市小中学校統合計画に基づき進めております。計画につきましては、前期計画としまして平成18年から23までの6年間、後期計画としまして24年度から29年度までの6年間、計12年間となっております。9ページでございますが、9ページの表は平成18年計画策定当時の小中学校ごとの児童生徒数及び今現在の学校、児童生徒数を比較した表でございます。この中で、ちょっと特徴的なことをご説明いたしますと、小学校欄で、両津吉井小学校、ここが唯一、平成18年当時と比較しましてマイナスになっていない学校でございます。あと、中学校、これちょっと注意が必要な部分ということでお伝えいたします。両津中学校でございますが、生徒の減少率が57.1%という表記になっております。実は、平成20年度に両津地区に県立の佐渡中等教育学校が開校したため、そちらの方に両津地区の生徒さんが流れておるといふような要因が、この57.1の要因となっております。
- ・ 10ページをお願いします。佐渡市の学校給食センターの状況でございます。1番上の両津学校給食センターにつきましては、今現在、改築中でございます。来年4月から供用開始する予定でございます。下は、幼稚園3園の状況でございます。
- ・ 11ページでございますが、以下、参考の資料ということでご説明させていただきます。12ページにつきましては、新規高等学校卒業生の進路の状況でございます。まず、進学につきましては、概ね26年度で74%程度、就職が23%程度となっております。前年度につきましては、下の表のとおり進学が約8割、就職が17.2%となっております。それでは、12ページをご覧ください。

	<p>これは、ハローワークの作成しております、新規卒業者、今年度の職業の紹介状況でございます。求職者数が94人おりましたところ、全員が就職している状況でございます。なお、島内における求人数ということで、162人という数字がございますが、島内における求人162人いましたが、実際に管内に就職した人数は62人ということになっております。62の数字につきましては、就職の総数・管内・他管内・県内と4つの区分がございますが、管内の数字合計が62人ということになっております。したがって、島内の求人の充足率は、一番右下の表でございますとおり、38.3%という結果になっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後、13ページから15ページにつきましては、昨年成人式の日に関係する総合政策課の方で実施しました、新成人への佐渡に関するアンケート調査でございます。内容・分析等につきましては、時間の都合で割愛させていただきます。 ・ 学校教育課の方は以上でございます。
越前社会教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごめんください。社会教育課の越前と申します。私の方から社会教育につきまして説明させていただきます。座って説明させていただきます。 ・ お手元の資料の16ページになります。事業の現状及びその課題と対応策ということで、社会教育課ということでもあります。この資料につきましては、平成27年度の佐渡市の社会教育事業計画のものから抜粋したということでもあります。社会教育につきましては、所管事業としましては6つの大きな事業がございます。1つは社会教育系の事業でございます。2つ目が社会体育係ということでもあります。3つ目が佐渡中央文化会館の所管事業ということで、芸術文化という部分での舞台芸術という所でのアミューズメント、両津文化会館の所管事業でございます。それから4つ目が図書館・図書室の所管事業があります。5つ目が佐渡学センターの所管事業ということで、この中には博物館・資料館等のものが含まれております。それから、6つ目がジオパークの推進事業ということで、この6つの大きな柱を基に行っておる所でございます。 ・ まず、社会教育系の所管事業でございます。議案の方に含めて現状それから課題と対応策という形で入っております。それぞれの事業につきましても、それに合わせて行っておりますけれども、それぞれの事業におきましては、施設の老朽化等による統廃合計画というふうなものが公民館の施設、社会体育施設、博物館、それから文化会館も含めてですね、全てそういう部分での策定が必要になって来ているというところがございます。それから、社会教育係につきましては、地区の高齢化や人口減少、それから家庭教育や子育てに関する講座が少なくなっておるという中において、その地区地区で特徴があった事業を行っていくということで、例を申しますと、佐和田地区では育児中の親御さんを対象にした講座を開催したところ大変好評を得ているとい

うこともあります。そういうようなマンネリ化を防ぐということで、新しい取り組みのようなものをですね、参加者の意向も聞きながらしっかりやっていきたいというふうに考えております。それから、課題のところに書いております、住民ニーズにあった魅力ある事業が求められているということもございますので、平成26年度から地区公民館事業の活性化と人的支援を進めるため、地区公民館事業活性化支援隊というものを組織しております。現在、支援隊につきましては73名おまして、その方々が住民ニーズにあった事業構成をしており、そこで協働でいろんな事業を行っているところであります。とりわけ、先日の6月21日には、真野地区におきましては多様な機関と連携しまして運動会を8年ぶりに復活というようなこともございまして、そのような功績は今後貴重に見守っていくという必要があると思っております。そういう事を含めてこれから支援隊の方々からしっかりサポートしていきまして、一緒になって地域の活性化に取り組んで参りたいと考えております。それから、佐渡市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、出会いの場の創設という所がございまして、島民の活動としましてもその一翼を担いたいということで、佐渡再発見サークル2015というような形で若い男女が出会う公民館講座というようなものも今年初めて開催をいたしたところでございます。

- ・ 次に、2番目の社会体育でございます。社会体育につきましては、市民の健康増進、体力の向上、技術力の向上に加えまして、スポーツツーリズムというような中での交流人口の拡大ということを主眼に置いて取り組んでおる所でございます。今年に入りまして大きなものとしましては、サンテラ佐渡スーパーアリーナが完成しました。それから、この6月に佐渡市スポーツ振興財団と佐渡体育協会が統合しまして、新たな組織、一般財団法人 佐渡市スポーツ協会が立ち上がった所でございます。この協会につきましては、従来のスポーツツーリズムに加えまして、先ほど言いました市民の健康増進等を行うということで、事業係とスポーツ推進係というものを設けまして、お互い、車で言いますところの両輪で、しっかり生涯スポーツの推進を行っていきたくて考えております。特に、交流人口の拡大につきましては、トキマラソン、ロングライド、オープンウォータースイミングそれからトライアスロン等々の大会がございまして、これらの出場枠を増やすということにも力点を置いていきたいというふうに考えている所でございます。

- ・ それから、佐渡中央文化会館については、先ほど言いましたが、施設の老朽化等々もございまして、この辺りもしっかり行っていきたいというふうに思っております。文化施設につきましては市の芸術・文化振興の拠点となりますので、こういう会館につきましてはしっかりと行っていきたいと思っておりますが、やはり市民グループとの協働を図りながら市の主催事業等も含めて、市民の文化の発展のために寄与していきたくて考えております。

- ・ それから4つ目の図書館・図書室の所管事業でございます。図書館につき

	<p>ましては現在 10 の図書館がございますが、市内の図書館・図書室に関しましては、当面、現状維持のまま推移するという事で考えております。その中において今、我々が考えているのが地域の情報拠点として郷土資料、それから行政資料をはじめとする、地域の資料の収集・活用という所をやっていききたいというふうに思っておりますし、それから、調査・相談リファレンス機能、この部分の機能の充実を図っていききたいと考えている所であります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それから5つ目でございます。佐渡学センターにつきましては、昨年4月に佐渡博物館が佐渡市の直営となったということで、佐渡博物館を総合的な博物館の拠点として、佐渡の博物館のあり方について、博物館協議会と連携を取りながら統廃合を含めた形での展示・収蔵施設のことをしっかりやっていきたいというふうに考えております。それから、やはり小中学生に親しまれる博物館にしていききたいというふうに考えておりますので、学校との連携を取りながら進めていききたいと思っております。今年、クイズ形式の小冊子を作りまして、そこで学生・子どもさん達が来て、親しみを持てる博物館に、そういうものを通してやっていききたいというふうに思っております。 ・ 最後にジオパークでございますが、ジオパークにつきましては、平成25年の9月に日本ジオパークに認定を受けております。平成31年度を目途に世界ジオパークの認定に向けて積極的に活動を進めていききたいと考えております。とりわけ、ジオガイドの育成につきましては、今現在約30名の方がおりますので、今後また、ガイドの質の向上或いはニーズを増やしていくというところもしっかりやっていきまして、人材の育成に努めていきます。特にジオだけでなく世界文化遺産・GIAHSとの連携という部分をしっかりやっていききたいと思っております。それから、ジオサイトにつきましては、10個ある訳ではありますが、案内説明の看板等についても、これから県・国と連携をしながらしっかり設置を進めていききたいと考えております。それから今後一番やっていききたいと思っているのが、ジオパークのツアー造成、商品の造成ということでありまして、これの開発それから販売という部分で地域の方々、集落の方々と一緒にですね、そういうアクティビティをしっかりと作っていき、それをしっかり旅行会社と連携をして販売につなげていききたいと考えております。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今教育委員会の所管する事業についてご説明申し上げました。ご質問あるかと思いますが、後程一括でご質問を受けたいと思っておりますので、続きまして、先ほども申し上げましたが地方創生の総合戦略佐渡版につきましては、池町総合政策監から伺います。
池町総合政策監	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、資料に基づきまして佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明をさせていただきます。総合政策監の池町と申します。よろしくお願いたします。 ・ 皆様のお手元に、横のパワーポイントの資料と、まち・ひと・しごと創生

総合戦略の本文の2つを配布させていただいております。本文を読み上げますと非常に時間がかかりますので、そのエッセンスをまとめたパワーポイントの資料をご覧くださいと思います。

- まず、1ページでございます。まち・ひと・しごと創生の背景でございます。新潟日報の8月の新聞記事でございます。佐渡市の人口が6万人を切ったという記事が載っております。人口減少が続く背景などが、これ記事に書かれておりますけれども、ここに書いてあることは非常に的を得ているのかなと思っております。左側に赤で枠囲みしている所がございますけれども、少子化特に若者の島外流出というのがその背景としてあります。出生数も若年層の全体のパイが減っているものですから、400人を下回るということ、それから島内の高卒者は進学や就職など合わせて8割以上が島外に出てしまうというようなことなどが書かれております。これはまだ地方創生を作るという前の段階ですけど、こういった記事が出ております。
- 資料2ページでございます。人口のデータですけれども、赤字が佐渡市の人口の推移でございます。見ていただきますと、毎年約1,000人の人口減少が平成13年以降ずっと続いているということでございます。その内訳見ていただきますと、自然減、これはお亡くなりになる方と産まれる方の差ですけれども、毎年720名。社会減、これは転出、島外に出られる方々等と、島内に入って来られる方々の差。これは、当然出ていく方が多い訳ですけれども、これが平均で約370名と。合わせて1,000人を超える人口減少が進んでいるということでございます。
- 一方で、参考で特殊合計出生率、一生に女性の方が御産みになる子どもの数ですけれども、佐渡市は平均で1.88と。国でよく議論されておりますけれども、全国平均は約1.4、それから新潟県も約1.4です。そういった意味では、若年層の全体の数は大きくない訳でありますけれども、特殊合計出生率は全国平均及び県の平均よりもかなり高い。全国的に見ても高い値となっております。それから、高齢化率というのも非常に高い値で、その数も徐々に徐々に増加をしているという、こういう傾向がございます。
- 3ページは観光入込客数ですけれども、平成3年の123万人観光の時代から下降していると。最近下げ止まりの傾向は見られますけれども、非常に厳しい状況でございます。これは、人口との関係でいきますと、若者の雇用の受け皿がないという所に繋がってくるところでございます。緑色はこれ新潟県全体の入込客数、ほぼ横ばいでございます。参考までに日本全国の外国人旅行客数というのは、非常に右肩上がりという状況になっております。
- 4ページ、これ農業に関する指標でございます。そう生産額での農業のデータですけれども、大きな流れでは徐々に徐々にですが、ここ数年横ばいではありますけれども、右肩、微減というような状況でございます。
- 5ページでございます。佐渡市の財政計画を示させていただいております。

平成 16 年に佐渡市は合併をいたしまして、10 年間は合併の特例措置というものはございましたけれども、それも終わりました 26 年度からは、佐渡市一本の予算でやっていくという一本査定ということで、激変緩和措置がここ 5 年間でなされますけれども、31 年からは 357 億円の予算でやって行かなければならないということで、全体の予算は縮減をしていく必要があるということでございます。非常に市の政策課題は多い訳ですけれども、全て市でやっていくというようなのは財政的には非常に厳しい、そういう背景がございます。

- ・ ここまでは背景でございますけれども、こうした人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小がまたこれが人口減少を加速化させるという悪循環に陥る恐れがあるということで、仕事人が人を呼び人が仕事を呼ぶ、悪循環ではない好循環を確立させるための取組が必要だということで、平成 25 年の 12 月に佐渡市では将来ビジョンというものを策定いたしました。その将来ビジョンの中でも特にこの人口減少問題に焦点を当てたものが、佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略ということでございます。
- ・ 7 ページに国の法律の概要を載せさせていただいております。昨年の 11 月に法律が成立いたしております、日本全体での人口減少に歯止めをかけるということ、それから東京圏への人口の一極集中を是正をし、将来に渡って活力のある日本社会を維持していくためにまち・ひと・しごと創生に関する政策を進めるという目的で法律ができております。この法律を受けまして、このパワーポイントの真ん中の下、第 8 条のところ、国は、まち・ひと・しごと創生総合戦略というのを政府として定めるということで、既にこの法律は施行されると同時に閣議決定をしております。国のまち・ひと・しごと創生戦略を勘案し、7 ページの右下にございます、市町村でもまち・ひと・しごと創生総合戦略。これは努力義務でありますけれども、そういう事を国はぜひ市町村で作ってくださいということになっております。この法律の第 10 条に基づく戦略、これを佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略ということで、現在作成をしているという所でございます。
- ・ 次、8 ページご覧いただきたいと思っております。国が閣議決定をしたまち・ひと・しごと創生総合戦略でございます。人口減少問題の克服ということで、2060 年に 1 億人程度に人口を維持していくと。それと同時に東京一極集中の是正、地方への若者の移転と、新しい流れを作るというものを含めた、総合戦略の全体像が示されております。5 か年の計画となっております。
- ・ 9 ページに財政措置、それから地方との関係などをまとめております。9 ページの一番上のオレンジ色の箇所、これは国が昨年閣議決定したビジョンでございます。それを勘案しながら地方において、地方人口ビジョンと総合戦略を作ってくださいということになっております。で、地方はそういう総合戦略、人口減少対策を含む総合戦略をしっかりと作った場合においては、9

ページの下のところに書いておりますけれども、27年度・28年度以降もその政策の実施に必要な経費というのを支援をいたしますという内容になっております。

- ・ 1ページめくっていただきまして、ここから佐渡市の戦略及びビジョンでございます。まず、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作るにあたって、今後の佐渡市の人口ビジョンを検討いたしております。現状は、先ほどお示しましたとおり、毎年約1,000人が減っていると。その内訳は、自然減が720名。ただ、一方で留意しないといけないのは、国や県と比較しても特殊合計出生率は高い値で推移をしています。それから、社会減、転出者が非常に多いという現状がございます。そうした現状を踏まえまして、このまま何も対策を講じない場合、国の人口問題研究所の人口の予測では、2060年に25,000人程度にまで減少をするという推計がございます。それから65歳以上の人口の割合も38.6%から42.3%まで増加をするという推計がございます。佐渡市といたしましては、色んな人口減少対策の施策を打つことによって、まず特殊合計出生率を1.9前後から2.08へ向上をさせるということが一つ。それから、特に社会減、佐渡への転入者より転出者が多いというところをなんとかするというところで、370人を今後5年間で50%縮小させるということ人口ビジョンとして決めました。この結果、2060年には37,000人程度の人口を確保できるという推計をいたしております。この37,000人を2060年に維持するための施策を総合戦略でまとめております。具体的には、長期的な取り組みといたしまして、この会議とも大きく関係いたしますけれども、佐渡の将来を担う人材育成・確保の取組、それから短期的な取組といたしまして若者の雇用の創出、1次産業の観光を中心にやるということなどを考えております。
- ・ 次、11ページでございます。今申し上げた人口ビジョンのとおりいく場合の人口の推計です。この赤字の、赤いラインがそのビジョンの目標と、人口の目標となっております。その下の黒字が、人口問題研究所が予測をしている佐渡の人口の長期的な見通しとなっております。
- ・ 次、12ページでございます。第1章にまち・ひと・しごと創生総合戦略の大事な基本的な考え方というものが記載してあります。それが、この会議と非常に関係しますので、一部抜粋をさせていただいております。まず、基本的な考え方の人口減少の克服というところで、まず人口の分析をしております。先ほど申し上げたとおり、約1,000人の減少で自然減・社会減の720・370人となっておりますということでございます。それから、一部中略いたしまして、その要因といたしまして、社会減については佐渡市は高校卒業後の進学先が少ないことから、進学による転出が著しいうえに、卒業後に戻る若者が少ないことによる若年層の流出が大きな要因となっているという認識を書かせていただいております。短期的な取り組みで、人口減少を完全に止めるこ

とは不可能でございますけれども、逆にこの若年層の流出を中心とする社会減への対策が、佐渡市の人口減少対策として極めて重要であるというふうに認識しております。そのために、この人口減少対策としては佐渡の将来を担う若者を中心とする、人材育成・確保に取り組んでいく必要があるということ、基本認識を示しております。人材育成・確保は一朝一夕に効果は出ませんので、短期的な取り組みといたしまして、1次産業の振興・観光振興を中心とした若者の雇用の受け皿づくりを進めるという認識をしております。特に、この人材育成重要でございますので、その下(2)のところに特だしで考え方を示しております。人材の育成・確保ということで、佐渡市における地方創生のためには、“佐渡の未来を担う人づくり”が最重要事項である。佐渡の将来を担う小中高校生の郷土愛の醸成と職業観の育成のための「キャリア教育」の一層の推進、学校教育の充実、「次世代の高校教育」の実現に向けた関係機関との連携強化、さらには島内企業における人材の育成・確保をこれまで以上に積極的に進めていくということを書かせていただいております。

- ・ それから、第4章にいろんな教育以外の様々な施策を書いておりますけれども、“佐渡の未来を担う人づくり”、すなわち人材の育成・確保というのが全ての施策の土台となるということを明記させていただいております。
- ・ 次に、13ページお開きください。総合戦略の全体概要を示させていただいております。4つの基本目標を書いております。ひとつは、島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出するというので、1次産業の振興であるとか業を起こす起業であるとか第2創業といったような雇用の受け皿を作るというもの。それから基本目標の2、これは観光でございますけれども、世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で、観光・交流を促進するというものでございます。それから、教育・人づくりといった意味では、関係が強いのは基本目標3でございます。生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援するというので、ア、イ、ウ、エの、特にウのところでございます。学校教育及び修学支援の充実と。このちょっと修というのは漢字が間違っております。就職の就の間違いですので、訂正させていただきますけれども、学校教育及び就学支援の充実ということを明記しております。それから基本目標4は、地域づくり、島の安全安心ということでございます。特に人材育成・確保という意味では、この基本目標の3の箇所が中心になりますので、その具体的なものを次のページに抜粋しております。
- ・ 14ページをお開きください。学校教育及び就学支援の充実ということで、本文の26ページにあるものを抜粋しております。ふるさとへの愛着を持った将来の佐渡を担う子どもの育成に向け、小・中・高校生へのキャリア教育等の推進体制を強化する。校外学習や企業と連携した職場体験プログラムを充

	<p>実らせていく。それから、佐渡の高校において魅力あるカリキュラムを持ち、地域の特色・独自性を活かした授業を取り入れるよう、新潟県と連携をして取り組みを進めていくというような考え方を示すとともに、下に掲げてありますような取組内容を進めていくことを位置付けをしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後 15 ページになります。人材育成それから教育等に係ることはちょっと説明はしていませんけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略全般に関して言えることですが、この戦略というのは7月までに作成をし公表する予定でございますけれども、その後のPDCAサイクル、Plan, Do, Check, Actionという施策・事業の効果・検証を行いながら必要であれば随時検証していくということを明記させていただいております。まち・ひと・しごと創生総合戦略については、説明は以上でございます。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一応教育委員会及びこの将来ビジョンに基づきました総合戦略、これについての概略特に教育関係を抜粋をして説明をさせていただきました。このことについて、ご質問等がございましたら一括してお受けしたいと思っておりますが、いかがでございますか。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続けて、いわゆる大綱を作るという上で、どういう基本的なスタンスでいくかということについて皆様方と意見交換をさせていただきたい訳でありますので、今説明があったことについてご質問がございましたら、お受けしたいと思っております。 ・ それでは、次第の下の方（2）にあります意見交換というところに入らせていただきたいと思いますので、ご質問なりご意見をいただきたいと思います。あくまでも、佐渡の教育を一体どうしていくのか、そのことを大綱に盛り込んでいくということでもあります。 ・ 当然、いろんなご意見を頂戴したものを事務局がまとめるということでございますので、思っていること等は網羅していただけると。それを事務局がまとめて、体裁を整えるというのは言い方がおかしいですが、そういう形でまた会議でそれを皆様にお示しをして、この発言があつてこういうふうになったんだけど、どういう状態っていうものを1、2度繰り返していきたい、こういう流れでございます。したがって、そういう意味で意見交換をこれから。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の方で口火を切らしていただきたいんですが、実はこの佐渡市の総合教育会議というものの話がありまして、どうも私自身、腑に落ちずに、ついこの間まであまりこれやりたくなかったんですよ、正直言って。それはなぜかっていうと、例のなんとかっていう市町村の問題があつて、あのことから端を発してその総合教育会議をやらなきゃならなくなった。首長を入れて。そんな意味がどこにあるのかということで、胸でくすぶっていた訳であります。 ・ そこで、文科省の方に問い合わせをいたしました。県の義務教育課長にも問い合わせをいたしました。下越教育事務所にも問い合わせをいたしました。

その結果、すっきりしたんであります。実はですね、これは、日本の戦後の復興というものを頭の中に入れていただくとすぐわかるんですと言われたんですね。あの、焼け野原になった日本が、早い時期に世界第2の経済大国になった訳です。これはもう驚異的なことであります。オリンピックも開いておる訳で。その原動力になったのは何かというと教育なんです。教育。その教育の原動力になったのは何かというと、日本がこれから目指す方向というものを出して、それに対してそれが実現できる教育を、いわゆる未来を育ててきたという所にある訳であります。これもひとつ、皆様頭の中に思い浮かべていただきたい訳であります。その時に、経済成長、経済というものを基本としながらも、やはり量的な文明化、文明化というものを日本は目指してきた訳です。経済成長をしながら量的な文明化ってのを目指してきた訳です。その結果、どういう現象が起きたかっていうと、経済活動ももちろん活発になりました。それはなぜかっていうと、若い人はまあ違いますけども、我々が若い頃は自家用車を持つって事はまず考えてもいなかったことであります。それを何とか自家用車を持ちたい、マイホームを持ちたい、或いはカラーテレビが欲しい、それから東京オリンピックをカラーテレビで見たい、それから冷蔵庫とかクーラーが欲しいというようなこういう物に対するそれを実現する為に、みんなで頑張っていこうやっというものがあつた訳であります。それが達成されたんです。したがって、今、物については市場では飽和状態になっています。飽和状態になっています。今、我々が求めているものは、千差万別なんです。そこで便利とかなんとかっていうものを求めているんだけど、それがなかなかうまくいかない。つまり文明が達成した副産物が今の我々の課題なんです。だから、今の課題を解決することはほぼ本当に難しいことだと思っています。つまり、意欲の問題。年金の問題。これは、その時に頑張ってきたおかげで高齢化が進んだんです。つまり、長生きするようになったんです。この長生きすることはいいことなんです。それにともなって、年金の問題が出たり医療費の問題が出てきた。これは今の課題になって来ております。それから、若者が一つの目標を持ってなくなって来てた。そのことによって、早熟の人間ができてきた。したがって、結婚願望これもないということが出てきた。もう一つは、日本の目指す方向性がない。なかなかつかめないってところに問題があるっていう。とすると、この総合教育会議の中においては、佐渡市の方向というものを見定めて、それに向かって子ども達が担う、そういう教育をしていかなければならないというものではないかというのが一つです。この総合教育会議の原点になると。

- ・ じゃあ、今の教育はいったい何かということを見ると、今の教育というのは、いわゆる日本全国の金太郎飴をやってるんじゃないかと。どこの地域でも同じことをやっていると。何だか知らん学力だことの、なんとかこうと

	<p>かというようなことをやってる。しかも、講義形式でやって記憶力というものでふるいにかけてる訳ですから、当然ふるいから落ちる人間が出てまいります。その人達が不登校にいたりいじめにいたりなんかしてるのではないですかと。いわゆる道德教育の問題ではありません。これは、子どもだけではなくて、大人もそうであります。佐渡市の職員の中でも悪いことをしているというのもあります。考えられないことをやるっていうことはそういうことなんです。漁協の職員もそういうことをやっているっていうのは、佐渡市でも起きてる。これは、佐渡市だけでなく日本全国で問題がある。表に出るか出ないかなんだけれども。そういう所も人ということです。ですから、今回の総合教育会議の大綱と言いますかその中では、皆さんが意思統一、全部意思統一をして、佐渡市はこういうものを目指してるんで、それが担える人材を育てていくための教育はどうしていったらいいのかというカリキュラムを含めてですね、やっていくのがこの大綱であるというふうに3者の方からの回答をいただきました。それで、ちょっとすっきりしました。ですから、どこかで問題があって、あれが引き金になったかもわからんけれども、スピード感を持つとか、形骸化とかそんなのは問題じゃない。そこん所が問題だということでこれがあるというふうに、私は3人の課長からお伺いをした。それをまず、ご報告をいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さん方の方で、いやそうじゃないんだというご意見があったら聞かせてもらいたいと思ってます。 ・ 総合教育会議において、首長が入り皆さん方と一緒にやりながらやっていくということでもあります。 ・ この要綱を見ますと、色んな経費の問題等あるんですけど、そんなことは何の問題もないことでもありますから、基本の部分はどうしていかってというのが大綱ではないかなと思ってますんで、その辺で皆さんいかがでございますか。私は、それを聞いたらすっきりしたんだけど、私は教育者ではないものですから、その辺をちょっと皆さん方から聞かせていただきたいと思っています。 ・ 仲川正道委員どうですか。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。最初に指名をいただきました。ありがとうございます。 ・ 実はあの、つい先日、今市長さんからも話のありました創生総合戦略、これをいただきまして目を通してきました。それから同時に、将来ビジョン。これが、最上位の位置づけだということ、これを私なりに目を通して市当局が何を考えているのか、市長さんが何を考えているのかということも掴もうと思ってきました。 ・ 本題に入る前に、キャリア教育ということが何度も出てますけれども、どうも教育委員会、事務局の考えるキャリア教育と例えば産業振興課であると

	<p>か総務課あるいは、市長さんの考えるキャリア教育の定義に、相当ズレがあるのではないだろうかというふうに考えていますので、そこでよく話をして佐渡のキャリア教育というのはこういうイメージなんだと、こういう定義なんだと。文科省は文科省で言ってますけども、佐渡の独自性で良いと思いますので、そののどこをしっかりと詰めたうえで、教育現場のキャリア教育において、是非しておいてもらいたいなというふうに思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市長さんが、今のお話で言わんとするこの総合教育会議の問題は、きっと佐渡が抱えている人口問題とか活性化、街づくりの問題に教育として責任を持って関与しなさいと、将来はお前たちの責任を求めるということを、簡単に言うと言われたんじゃないかなというふうに理解してまして、大変、私はありがたいことだというふうに考えています。 ・ 資料に目を通させていただきまして、大変、特に総合戦略についてはできているな、問題をしっかりと捉えている、というふうに私は考えました。いくつか言わせていただいてもよろしいでしょうかね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうぞ。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ あんまり長くなるのもあれですし。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いや、いいですいいですいいです。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も今から3か月ほど前までは、学校現場の、高校現場の責任者をしておりましてけれども、キャリア教育というのはこう捉えています。自分の人生をどう設計していくか、そのための資料集めの教育であると。その人生の設計の中には、ひとつ大事な柱は、食って行かなきゃいかんので、職業という1本の柱を建てなきゃならん。もうひとつは、これは職業というのはワークキャリアと言います。もう一方は、家庭生活であるとか自分の能力的にいろんなものがありますけれども、ライフキャリアというと思うんですけれども、このライフキャリアに合わせて、人は考えて行かなきゃならんのだと。つまり、どうやって食っていかだけじゃなくて、結婚したいだろうしどの場所に住むかっていう事もあるだろうし、それから何人位子どもを持って、子どもにこういう教育も与えてとか、地域でこんな活躍もしたいとかそういう事も含めての考え方がキャリア教育だ、と私は現場の責任者としては考えていました。その時に、市長さんから感化をだいぶ受けたこともありますけれども、佐渡の人間は人生のキャリアのベースに佐渡が、というふうに思っております。 ・ 高校を出て行く子ども達には、君たちは3つの中から選択をして欲しいと。ひとつは、高校を出てそのまま佐渡に残って、佐渡を支えるという生き方。これが一つ目。これは当然有り得ることです。それから2つ目は、一旦外へ出て大きく育って佐渡へ帰ってくる。佐渡ではすぐには得られない知識や技術や教養やそういうものをしっかり得て、佐渡へ戻ってきて佐渡へ貢献する生き方。これが2つ目。それから3つ目が、いろんな生き方がありますけれ

ども、外へ出てしっかり生きて、外から佐渡を応援する生き方。その3つに共通するのは、ベースには佐渡がある。だから、佐渡学は大事だよと。佐渡学っていうものは文化だけじゃなくって、色んな方面、多方面からの切り口の佐渡学っていうのがあるよ、ということを行いながら。とにかく自分の人生のベースには佐渡があると。だから、さっきの3つのことから一つを選ぶ、自分がどのタイプだろうと考えながら、これからの生き方を考えてもらいたい、というふうに言ってきました。

- それと、直接この戦略と関わるかどうかわかりませんが、だいぶ関わる部分があるんじゃないかというふうに思っているのは、是非、今後予算等も付けながら、高校にも目を向けていただいて、高校生が将来この3つのどれかで佐渡に貢献しようという意識を高めるように応援してもらいたい。我々もそういうふう動いていかなきゃならんというふうに考えています。
- ついでに言うと、学力について、私とこれは市長さんの考えはちょっと違うかもしれませんが、私はこういう時代だからこそ基礎学力が必要だ、というふうに思っております。農業をやる人間が、人から命じられて仕事を淡々とやるだけで、これからの農業はやっていけないんじゃないか。第6次産業という言葉も生まれていますけれども、生産したものを加工し、流通し販売するっていう全部を見通した中で、自分は農業者になる、というような生き方が必要になっていくはずだから、確実に学力は要る。だから学力を軽視するような教育委員会であってはならん。そういう意味で、学力は本当に必要だと考えています。ここまでは、キャリア教育、学校教育についてです。
- 非常に興味を持って総合戦略を読ませていただいた、このデータの中で2つ素晴らしいことが分かりました。1つ目は、先ほど総合政策監が言われた中の、出生率のことです。これは佐渡の大変大きなメリットだと。ただ、ベースが少ないもんだから人口が減ってきてしまっていますけれども、出生率は県よりも国よりもずっとはるかに上だということはPRしていかななくてはならん。それから、待機児童ゼロだっというデータがありました。これも利用しなきゃならん。そうすると、出生率が高くて待機児童がゼロだっという事に幼児教育がプラスされると、これはすごい島になるんだらうと。だから、言いたいことは、外から子育て世代を呼び込むというやり方があってもいいんじゃないのか。子育てに困っている人が世の中にはいっぱいいる。だから、佐渡に子育て世代、30代・40代を呼び込むようなそういう政策も必要になる。それから幼児教育だと、もうひとつは、今、保育専門学校を誘致していただいて本当にありがたかったというふうに思うのですが、あの役割は大変大きくなるだらう、というふうに考えています。ただし、子育て世代を呼び込むにはその経済生活を支えることが必要になりますので、今度は地域振興課等とあるいは商工観光課等々のリンクが必要になってくるであろうと思っておりますが、今日本全国で困っている、子育ての問題を佐渡なら解決できるというノ

	<p>ウハウを作って、丸ごと家族呼び込むっていう政策をどこかで作る。例えば、「子育てが楽しい島」っていうブランド化をすとかね。そういうものの打ち出し方も非常に佐渡にとってはいいんじゃないか。まるごと呼び込むと。というふうに考えてちょっと感想だけ言わせていただきました。</p>
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、ありがとうございました。 ・ 私もさっき、先生がおっしゃってたように、佐渡の子ども達が高校出て佐渡に戻って、佐渡のために頑張る。それから、佐渡を出て大きくなってまた佐渡に戻って頑張る。或いは、佐渡に帰らないけれども外から応援をするという、この3つがあると。これはそのとおり。 ・ ただ、今その教育の中において、それを子ども達に選択肢を与えているのかどうかっていうことになると、私は疑問だったもんですからさっき、だから基礎学習が、私は必要ないというんじゃないんです。基礎学習は絶対に必要であるけれども、そこの意味でやっぱり佐渡における、違う実践学習というものも必要ではないかなと、私自身は思ったもんですから、そう言った。ちょっと言葉足らずだったんですけど、基礎学習は決していらぬという訳でもありません、と思っております。 ・ 委員長の仲川さん、いかがですか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどキャリア教育の話が出ていました。市長さんからの話をいろいろ聞いて、私の今まで考えていた、或いは取り組んできたキャリア教育を見直して、自分なりに構築しなきゃいけないのかなということをも感じました。 ・ 佐渡を担う人材を育てようというお話がありました。その面からキャリア教育を構築していく。ただ残れ残れという教育、これはキャリア教育ではないだろうと、全く違うだろうと。そんな浅はかなものじゃないですよ。そんな意味で、意義のあるキャリア教育を理論的に作って行かなきゃならない。これが自分の仕事だと思っています。どこかの機会にまとめて言いたいと思います。 ・ 近頃のこの時代がどんどん変わってきて、対応の仕方も変わってきている。私は中学校の関わりの中で生きてきましたけど、いじめや不登校もありました。ニートとかの青少年の問題もある。全て生き方に迷っている現象の一つだと私はずっと捉えているんです。生き方というのは、我々の小さい頃はある程度みんなははっきりしている。勉強すればいい会社に行ける。いい大学に行かなきゃいい金はもらえんぞみたいな。ある程度金を儲けて幸せになろう、親を幸せにさせよう。単純な目標がはっきりしていた。今、そういう生き方だけではない訳で、生き方が多様化している。子ども達自身の生き方に迷いが生じてる。職業観や勤労観などにも迷いが出てきている。だから、我々大人は、親を含め、かかわりの教師を含め、つまり、周りの大人が子ども達に生き方を教えてあげることが極めて大事じゃなからうかと、私はずっと思っている。そういうことで、人生を助けてあげるとかね、簡単に言うと、そ

	<p>の生き方の構築を助けてあげることが私はキャリア教育だろうな、そういう捉えなんです。生き方教育を中心とした、職業指導ですね。仕事というものをどうする、そして生き方指導を中心にしたキャリア教育、こういった考えを私はしています。そこで何をを目指すのかというと、「社会的な自立力を養う。」それが学校の仕事だろうと、そういう捉えをして学校全体を見直したりもしました。そうすると、何が見えてくるかというと、学力を上げよう、大事です。人をいじめるな、大事なことです。しかし、社会的自立力を養おう、生き方をどうするのって広い目で将来を捉えてみた場合には、「あなたの生き方どうなの？」という目線で考えられますよね。教師自身も「あなたはどう生きているの？」という、自分の振り返りにもなる。これが背中で教えることでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会的自立力」の沢山ある力の中で、一番大事なのは、「体力」という力でしょう。体力が一番の基本。二つ目は基礎的な「学力」という力でしょう。人と関わらなきゃいけないから「人間関係能力」という力も必要でしょうというふうに捉えながら、色んな力がある。このように社会的自立力として身に付けなければならない力は色々あるでしょう。だから、学校教育に道徳や教科や特別活動が、社会的自立力を養うため、人間作りのためにあるんだという捉え方。そこに我々教師あるいは大人がどう関わっていけるのかなって。私はそう捉えてきていたんです。 ・故郷佐渡の将来を担う子ども達の育成をどう構築していくのか、理論付けるのか、先ほど言ったように、自分の宿題になった訳ですけど、文科省とか、いろいろ読んでみて或いは聞いてみても、方向としては同じなんだなど。それを佐渡独自のものにと話。私はまったくそのとおりでいいと思うんです。佐渡独自のものを泥臭くてもいい、それを我々が探し求めようと。 ・大綱という話ですが、色んな市町村を見てみると、仰々しく分厚い冊子としてまとめているものもあるし、A4一枚にまとめているところもある。新潟市なんかはそうですね。それでいいような気がします。でも、決してそれを飾り物にしちゃいけない。理念であれ、目指す方向であれ、とにかく飾り物程度という、そのようにはしたくないんです。現場にどう繋がって、社会教育にもどう繋がっていくのか、しっかり、チェックしていかなきゃならない。そういうものをちゃんと見通しながら、この大綱というものを形だけで終わらせないように作りたい。長くなりましたが、そんな思いです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。はい、ありがとうございました。あの、全くおっしゃっているとおりだと思います。 ・ それでは、仲川（美）さんどうですか。今のお話の中で。
仲川（美）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、凄く難しくて、どういうところから切り込んでいけばいいのかなどずっと考えていたんです。でも、佐渡に戻ってくる人材を、いろんな、3パターンある人材を育てていくには、やっぱりキャリア教育に行きつくのかな

	<p>と思ひまして、キャリア教育って色々言われてますけど、私自身考えた時に、私も仲川（正）先生と同じ自分の人生の居場所づくりであったり、人生設計なんじゃないかなと思ひました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ、その中学校の職業体験とか、佐渡に戻ってくるための職業を探すにはどうしたら良いかっていうんじゃないかって、本当に生まれた時から小学校に入って、中学校に入って高校に入って卒業して、自分のこれからを見つける時に、じゃあ自分はどんな役割があって、どんな人生を歩んでいくだろうっていうことを考えるための勉強なんじゃないかなと思ひました。 ・ そのために佐渡市として何ができるのかなと考えた時に、まだちょっと自分の中でまとまってないんですけど、小学校の段階で佐渡ってどういう所だろう、自分の住んでる佐渡ってどんな良い所があるんだろうって探しながら生きて、今も勉強してると思うんですけど、佐渡にはこういう所があって、こういう事があるんだよっていう勉強をするんですけど、そこで終わってるような気がして思ひました。自分にとっての佐渡ってどんなところだろうって考える、もう一歩先の教育も必要なんじゃないかなと思ひました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、おっしゃったように、キャリア教育というものの考え方を全体で統一をしていくというのも、先ほどもお話にあったのでありますので、この辺をやっぱりやっていかなきゃならないと思っております。 ・ ただ、私自身の経験からしても、実は佐渡に生まれて高校までいたんだけど、佐渡のことを全く知らない。佐渡のことを知らない人間が、佐渡から出た場合に、帰ってこないと思ひます。だから、佐渡にはこんないいものがあるってということはある程度全部知ってて、その上で出られるんだしたら、それは正道先生がおっしゃったような3つのパターンを自分たちが選べると思ひます。ところが選ぶ根拠がない。それはやっぱり、保育園・幼稚園、小学校・中学校のもとで教えて行かなければならないんじゃないかと。もちろん、生涯学習は必要だけどね。それを私はキャリア教育だと思ってるんですけどね。 ・ これはまた、皆さん方専門家のご意見を聞きながら、その辺の意思統一をしていきたい、こう思っております。 ・ 金子さん、いかがですか。
金子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私もちょっと最初のうちはキャリア教育と、佐渡学がセットで出てくるんですが、セットの接点が取れなくてどこでそれを結びつければ良いんだろうと思ひてきました。 ・ 私自身が、もともと生まれも育ちも佐渡では無いというところが大きいかもしれないんですけど、佐渡の自分の子どもも見てて、佐渡の良さを知る前に佐渡の問題が先に入ってしまう部分というか、ある程度物心がついてきてからってというのがあって、うちの子ども達は、一人は転勤族でたまたま佐渡にいますし、1人はもう東京に出てしまったんですけども、私自身が育てる

	<p>中で、自分自身が佐渡のことをよくわからないまま育ててしまったので、なんとなく根無し草のような子どもになっちゃったのかなっていうのがあります。色々と子どもと話をしているなかでも、本当に佐渡のことを知らない、私の方がまだ途中から知っている部分もあったりとか、それこそ伝統であったり、文化であったりする部分もわからない。あと、子どもの時無理矢理佐渡おけさを踊らされたとか、そういう体験になってしまっているっていうのは凄くもったいないことだっていうのがあって、やはり佐渡のことをよく理解させるっていうのは、大変必要なことなんだろうと思いはじめました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さっき、仲川（正）先生がおっしゃった、その3つの進路っていうのは本当に私もずっと思ってたことなんですけれども、それに至るまで、私も先生方のような教育の専門家ではないんですけれども、学力テストの結果を見ても小学校までは全国平均位でいくのが、中学校で落ちてしまうっていう部分に、やっぱりなんかこう問題の始まりがあるような気がしています。子ども達を見ていてもなんかこう、中学校へ入って次の選択に入った辺りから、まあこれでいいやみたいな諦めみたいな部分と、いやもう外へ出てやるぞみたいな二極化のようなものが凄く見受けられて、そこを何とかできないかなと常々思っています。その辺りをやはり教育委員会として、もう少し考えていかなければいけないのかと。あまり今の議題と関係ないのかもしれないんですけれども、そんな思いをしながら聞いていました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私はなにも、キャリア教育だけが大事だなんて思っているんじゃないくて、ひとつの手段としてそれも必要だなと。次の会もありますからね、やっぱり郷土愛ってのは心の中じゃない限りは、あんまりうまくいかないんじゃないかなって感じがします。本来は醸成するための一つの手法としてキャリア教育があり、佐渡学があるだろう。或いはインターンシップみたいなものもあるんだろうと思うんですけども。 ・ 最後に、教育長。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんなご意見を聞かせていただいて、教育の素人だとおっしゃりながら、教育の本質をついている所のお話もあって、大変良い意見交換できたなと思ってます。 ・ ちょっと話変わるんですけども、シートウーサミットの時に畠山重篤さんという、気仙沼で牡蠣の養殖やっている、森は海の恋人っていう事で、書されている方のお話を聞きました。あの3. 11の後ですね、またその牡蠣の養殖を復活させる。で、その根底にあるものっていうのは、やっぱり畠山さん、それからその取り囲む人たちのプライドって言いましょうかね、誇りっていうものを凄く感じたんですよ。 ・ 学校で色々こう職場体験やってますけども、どっちかっていうとその上っ面の職業体験と言いましょうかね、そんな感じがしています。やっぱり、それぞれのお仕事大変なんだろうけども、誇りを持ってうちらは仕事をしてる

	<p>んだよってというような所を、やっぱり子どもたちに伝わるような、そういった職業体験の場が持てればすごくいいなと。佐渡のことを知る、好きになる。それから、色んな職業に触れながらプライドを持つてる人たちに、是非深く関わらせたいなというように思ってます。これも、先ほど仲川（正）先生がね、人生設計だとおっしゃいましたけども、その子どもたちの人生設計を学校も行政も、それから企業の方も一生懸命応援するという、そのことが凄く大事なのかなという気がしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • またこういった意見交換ができたらいいなと思っております。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 今、教育長がおっしゃってた、私もその先生のお話をきいたんだけど、別に何もあの仙台で牡蠣をやらなくたって、広島でやったって変わりはないであろうと。広島でやったっていいんです。ただ、彼は、あの仙台の地でやってるっていうのは、さきほど正道先生がおっしゃった、誇りがやっぱりあるんですよ。この原点てなんだろうって、やっぱりワークキャリア、ライフキャリアなんです。職業のふるさとだと私は思っている。それはやっぱり教育の原点にすべきだと思っております。 • いずれにいたしましても、他のことで失敗しても取り戻すことができます、頑張れば。だけど、教育だけは取り戻すことができません。そのためにも、この総合教育会議に意義があると思っておりますので、今日はここで閉めさせてもらいます。次回、担当課の方でこれをまとめた物をもう1回出します。その上でもう一度議論をしていただいて、次の会である程度の道筋だけはたてたい。 • 3回やるんだったね。
吉田課長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • そこで、道筋たててもう1回原案を皆さんにお出しをして、最終版にする。そのかわり、最終版はただ単なる作ったものじゃなくて、魂の入ったものにしていく、こういう流れでこれから進めたいと思っておりますので、よろしくご協力ご指導いただきたいと思っております。今日はこれで閉めたいと思います。